



X線写真の説明を受けるジェルタ・パスカルさんと、グイー・ジャッセンさん(右から)=西宮市の兵庫医科大学

深刻な医師不足に悩むカリブ海のハイチを支援しようと、神戸の医療NGOの招きで来日した医師2人が、兵庫医科大学（西宮市武庫川町）で研修をしている。現地で多い結核患者の治療や予防方法などを約1カ月半かけて学ぶ。

結核医療研修 NGOが招く

一昨年に大震災
招待をしたNGO「Future Code (フューチャー・コード)」によると、ハイチでは栄養不良や医療機関の不足から、結核に感染している人が多いとされる。さらに2010年の大地震で病院が壊滅的な被害を受けた。多くの医師が犠牲になり、医療態勢の立て直しが緊急の課題になっているという。

NGO代表で、兵庫医科大呼吸器外科助教の大類隼人さん(31)が昨年5月にハイチに入り、現地で治療活動を続ける日本人医師と相談。今月11日からの研修の受け入れが実現した。来日したのは女性のジェルタ・パスカルさん(32)と、男性のグイー・ジャッセン

ハイチ人医師 兵庫医大に

さん(38)。2人はハイチの地震後、仮設テントなどで患者治療に当たってきた。自身の両親も結核で亡くなり

したというパスカルさんは、「X線技術や救急医療を学んだことをハイチの医師たちに伝えたい」と話した。ジャッセンさんは

「短い期間だが、日本で学んだことをハイチの医師たちに伝えたい」と話した。(藤本久格)